

11月の果実の見通し

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
みかん類	20,912	100	22,367	209	95	203	-	-	愛媛、熊本、長崎、和歌山、佐賀産中心で全体の9割を占める。11月からは早生みかんとなる。愛媛は小玉傾向で、M・S中心の入荷となるが、糖度は高く、食味は良好。熊本、長崎もM・S中心の入荷となる。全体の入荷量は前年並み、価格は前年をやや下回る見込み。
りんご類	7,075	106	8,692	306	90	248	1,863	26.3	青森、山形、長野産中心の入荷となる。品種はふじが約7割を占め、ジョナゴールド、王林など種々出揃う。各産地ともに花の数が少なく不作となった前年を上回り、果実肥大も良好に経過している。全体の入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。
かき類	6,578	110	7,563	261	86	241	399	6.1	新潟、奈良、和歌山、福岡産が中心となる。品種は富有柿、平種無柿、次郎柿など。新潟はカメムシ被害や日焼け果が多く、入荷量は前年を下回る。奈良は前年を上回る入荷量となる。和歌山は11月中旬でほぼ終了となる。全体の入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。
西洋なし (ラ・フランス)	1,092	97	1,269	309	102	270	1,076	98.5	山形産中心の入荷でほぼ10割を占める。山形は夏の干ばつの影響により若干小玉傾向である。予冷追熟ものの販売は11月2日から開始となる。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並みの見込み。
メロン類	747	95	800	566	104	577	14	1.9	熊本、静岡、茨城産が中心となる。品種はアールス、アンデスなど。各産地のアールスは開花時期の天候に恵まれ、着果、果実肥大とも良好である。また、外觀の仕上がりが良く、果実品質も良好である。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。
ぶどう類	531	100	534	714	103	694	19	3.6	長野、青森、山梨、岡山産が中心となる。品種は巨峰、スチューベン、アレキサンドリアなど。長野の巨峰は貯蔵ものとなり、中旬までは量的にまとまるが、下旬には減少し11月いっぱい終了となる。青森のスチューベンは作柄、品質とも良好。全体の入荷量は前年並み、価格は前年をやや上回る見込み。
いちご類	671	95	607	1,439	115	1,644	-	-	栃木産が約6割を占め、福岡、静岡、佐賀産などが入荷する。栃木は生育順調で11月中旬から増量してくる。果実の大きさは2Lサイズが中心となる。福岡は11月10日頃から出荷開始となる。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。